

12. KDDI株式会社 auビジュアルガイド

KDDI(株) auビジュアルガイド

企業名	KDDI株式会社
機器・サービス名	auビジュアルガイド
問合せ先	smartglass/atmark/kddi.com (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。 KDDI株式会社 先端技術研究本部 応用技術研究2部 次世代体験技術グループ 白石 里咲
機器・サービスの概要	オーディオガイドと同様なシーンで活用できる、スマートグラスを用いた映像による解説サービスです。多言語の字幕・音声ならびに手話を用いた作品解説や、仮想空間を活用したARならではの鑑賞体験も実現できます。
機器・サービスの特徴	1. 機器・サービスの機能 ● 「auビジュアルガイド」は、展示会や美術館、博物館といった展示品を鑑賞する場面で、従来広く用いられていたオーディオガイドの視覚化を実現しました。オーディオだけでなく、関連作品の表示やパーソナルガイドの表示を通じて視覚に訴えることで、より直感的な芸術鑑賞を可能にしています。見ることを通じて理解を深める体験は、これまでオーディオガイドを使うことが難しかった、聴覚障がいをお持ちの方にも大きな価値を提供し、聴覚障がい者の美術館や博物館へのアクセスを支援します。 2. 情報アクセシビリティの配慮内容 ● 「auビジュアルガイド」は、特に聴覚に障がいをお持ちの方に視覚効果で置き換えるガイドサービスを提供しているが、操作方法をわかりやすくするため、タップするボタンを大きく配置し押しやすくしています。 ● また、スマートフォンのタップという多くの方になじみのある動作であることも使いやすさの向上に寄与しています。

KDDI(株) auビジュアルガイド

使い方はとても簡単。スマートグラスをかければ、スマートフォン画面はシンプルな操作だけ。

1



作品の前に立ちます。

2



スマートグラスを装着します。

3



スマートフォン画面で番号を入力します。

4



スマートグラス上に、映像解説やARコンテンツなどのビジュアルガイドが表示されます。

KDDI(株) auビジュアルガイド

当事者ニーズを 踏まえた開発

- 企画の段階で、ろうあ連盟に相談し、聴覚障がいをお持ちの方に役立つサービスとなっているか確認しながら開発を進めた。特に手話を用いたコンテンツについては、撮影の協力も仰ぎ、わかりやすさにこだわって製作している。実装後も、フィードバック次第で簡単に内容の変更(動画の差し替え)が可能であり、さまざまな場面に対応できる。
- ろうあ連盟にご協力いただき、聴覚障がい者に実際にサービスを利用してもらい、問題なく利用できるかはもちろん、auビジュアルガイドの利用によってどのように美術鑑賞が変化したかのアンケートをとっている。スマートグラスをかけてスマホをタップするだけなので簡単、かつ手話やパーソナルガイドが表示されることで新しい鑑賞体験ができたという好意的な声がある一方、スマートグラスとスマホを有線接続することが煩わしいといった指摘は改善につとめつつあり、より使いやすいものになるよう努めている。

企業としての 組織的な取組

- KDDIグループはグループ人権方針に掲げる「誰もが使いやすいサービス・商品の実現」を目指し、経営における重要な人権課題として、またサステナビリティ経営の一環として、ウェブアクセシビリティへの取組を推進している。
- 2024年3月に「KDDIグループウェブアクセシビリティ方針」を公開するとともに、ウェブアクセシビリティ事務局を設置し推進体制を構築。WCAG2.2 AA基準の達成を目指し、段階的な目標を設定、ウェブサイトやアプリの計画を策定するとともに、ガイドラインの開発や社内教育の整備も進めている。
- ガイドラインの開発: KDDIグループのウェブサイト・アプリへの実装に向け、基準達成のプロセスや運用方法を独自のガイドラインとして策定。このガイドラインは、他企業にも参考にしてもらえるよう一般公開を目指している。
- 社内教育: トップ・ミドルマネジメントから現場の企画・開発担当社員まで、役割に応じた基本知識やスキル育成のための教材を作成。会議体や勉強会、Eラーニングを通じて浸透を図っている。具体的には「アクセシビリティの重要性の理解」「WCAG2.2項目の理解」「コンテンツ作成の方法」などで、一部は全社員必修のEラーニングとして展開している。

1 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- ・ 聴覚障害者向けに美術館等のオーディオガイドを、文字、音声、手話と各種の方法で提供を行うことを試みている。最新の技術の応用として評価できる。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ スマートフォンの簡単な操作で実行できる。映画鑑賞ですでに導入されているスマートグラスを美術館や博物館でも拡張させることで文化施設のアクセシビリティを実現させた点が評価できる。
- ・ WCAG 2.2 AAへの対応を進めている点は高く評価できる。

2 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- ・ 聴覚障害者団体や11名のきこえない人に確認しながら、ユーザテストや専門家による評価を実施して開発を進めている。手話コンテンツの撮影の協力もしてもらっており、また分かりやすさにこだわって制作している。
- ・ 実装後も、フィードバック次第で簡単に内容の変更(動画の差し替え)が可能。
- ・ グループ内の障害者雇用企業(特例子会社)と連携して、ニーズを開発にフィードバックしている。実際の展示会においてもユーザフィードバックを得ている。

3 企業としての取組について、優れている点

- ・ KDDIグループとしてアクセシビリティ方針を作成し、公開(2024年3月)している。今回の応募サービスに留まらず、社内すべてのサイトにも同じように取り組む姿勢をとっている。
- ・ 社内教育として、役職/職種に合わせた教育コンテンツを提供しており、WCAGに関しては一部社員は必須受講としている。社員研修などを充実させることで、継続的に社内への浸透を図っている。

4

当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- 音声ガイダンスの手話表示について、手話で表示するメリットが明らかになることを期待する。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- スマートグラスの応用により、聴覚障害以外の障害にも適用できる可能性があり、幅広い年齢層の障害者ニーズに対応するための改良や検証を進めることを期待する。
- ビジュアルガイドにおける手話が芸術分野において的確な表現になっているか、またスマートグラスで手話が見やすいかなどの検証を期待する。
- 日本人の多くが眼鏡をかけていることから、眼鏡の上からスマートグラスを装着できるか、また装着した状態で博物館などを歩き回れるかに関する検討を期待する。
- 実際の使用場面では、作品の前でデバイスを使用する人同士の干渉(身体的な接触)がやや気になり、対応を期待する。

c. その他(普及のための周知広報、体制構築など)

- サービスをどのように周知し、利用者を拡大するかについて工夫を期待する。
- 聴覚機能を部分的に使用する聴覚障害者もいるため、難聴団体と連携し、聴覚との同時アクセスについて検討することを期待する。
- 芸術分野の手話表現に関する検証に関する専門のろう者チームに依頼するなど、開発のパートナーの選定に今後工夫を施すことを期待する。